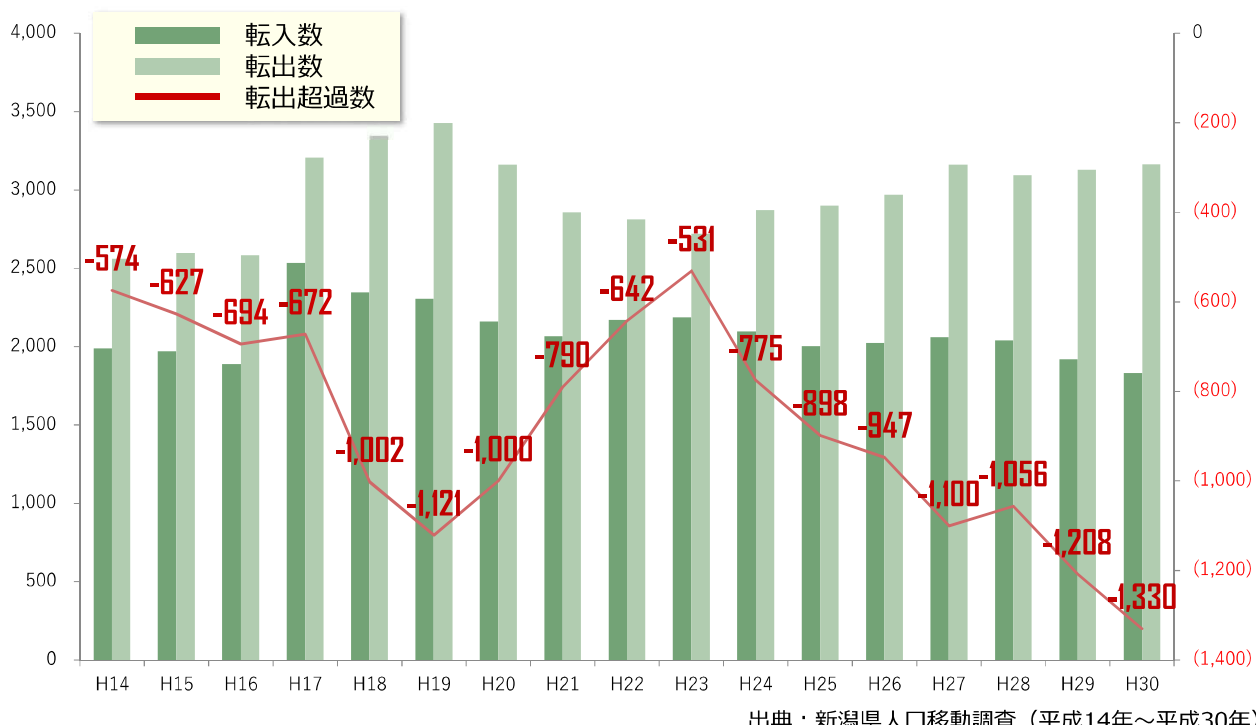




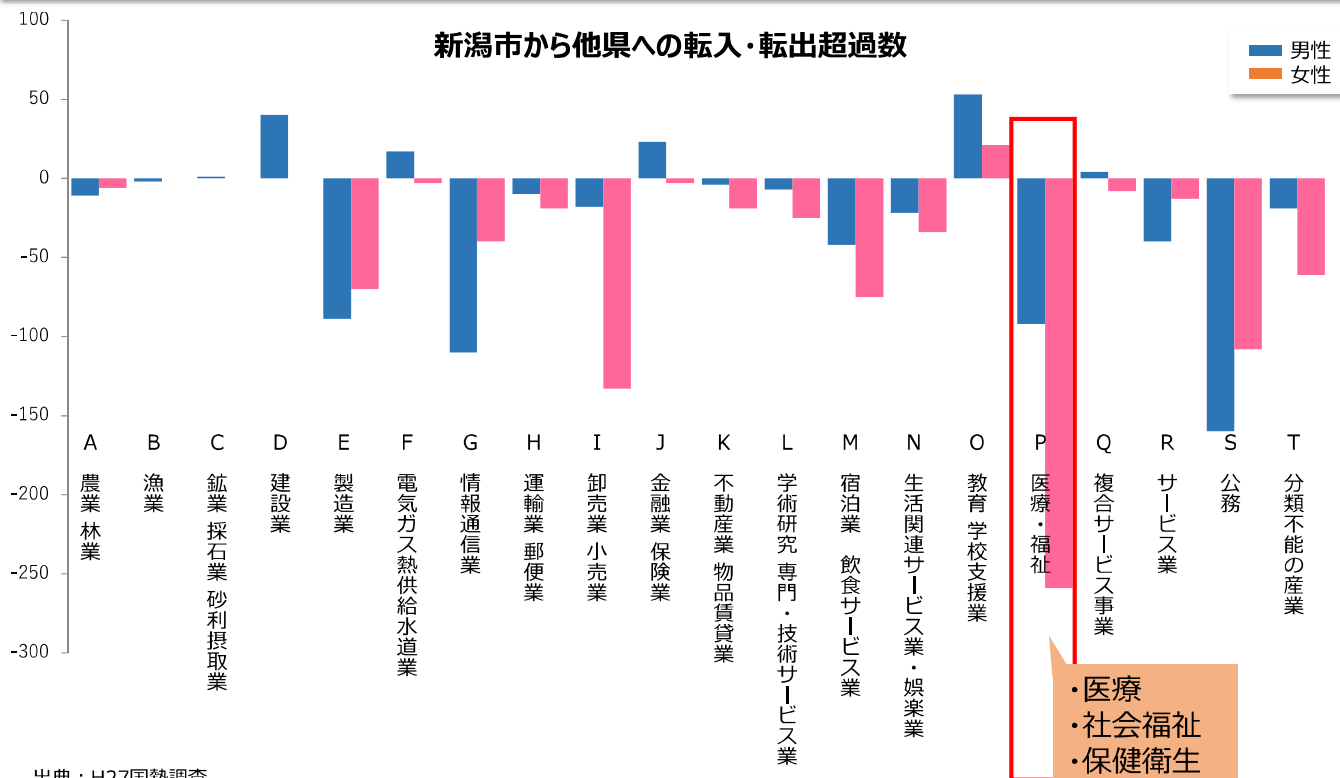
東京への転出超過

○ 15年以上前から、毎年多くの人が東京都へ転出している
⇒ 東京には新潟市出身者が多い



産業別転出超過数

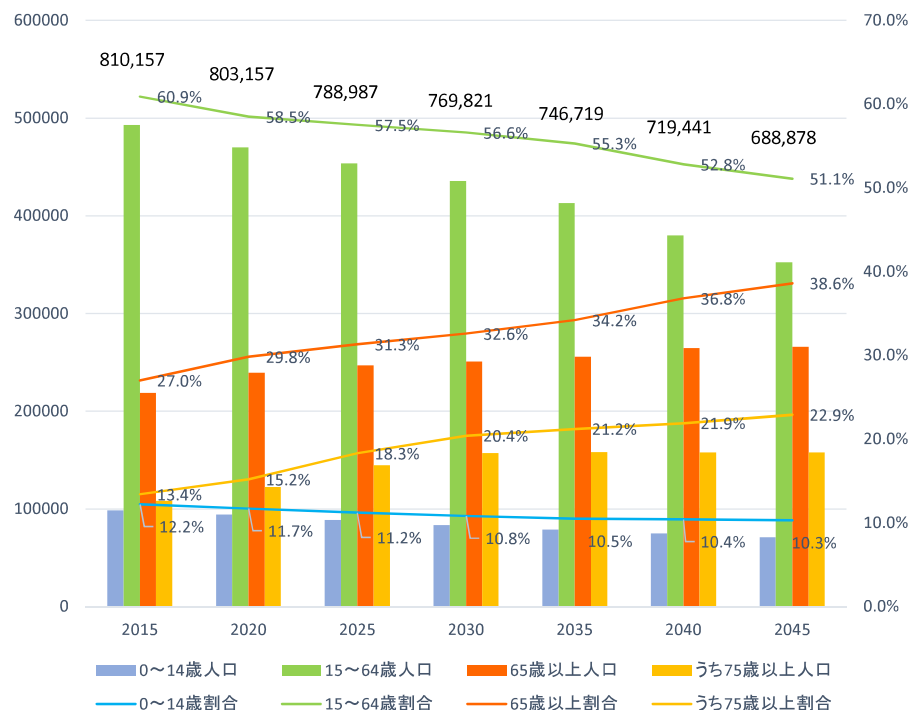
○ 20～24歳の女性の転出超過数が特に多い産業は「医療・福祉」



新潟市では、急速に高齢化が進み生産年齢人口は減少している。2021年5月現在、高齢化率は30.1%であるが、2040年には36.8%と予測されている。また、75歳以上人口は、2015年から2045年の30年間で約10万人から15万人と1.5倍に増加することが見込まれており、医療・介護体制の充実が求められている。

(1)本市の将来推計人口

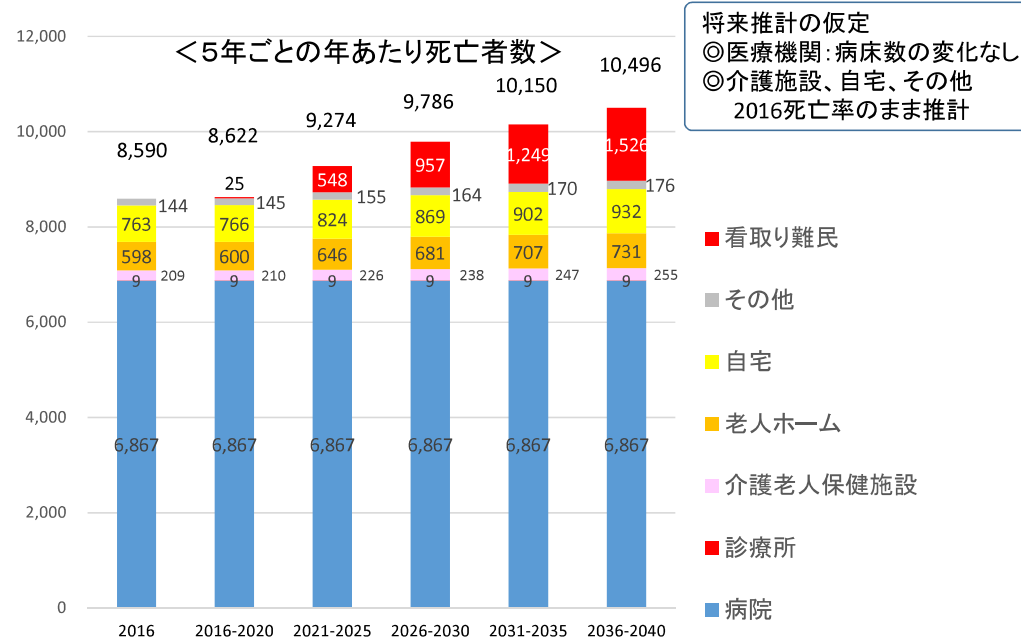
- 人口は既に減少局面に入っている
(中央区、西区は2020がピーク)
- 65歳以上人口のピークは区によって異なる
(2025年秋葉区、2030年北・西蒲区、2035年南区、2045年他区)



国立社会保障・人口問題研究所の将来推計事項の推計手法を基に、本市独自で2045年までの将来推計人口を算出

(2)死亡場所別死亡者数の将来推計

- 2031~2035年までの死亡者数は、年間10,000人を超え、現在よりも一年間で1,500人以上の増が見込まれる。
- 病院以外での死亡者数は2031年には3,200人を超え、うち「看取り難民」は1,200人を超える。
- 病院以外での看取り体制の構築が必要となる。



・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25年3月推計)のうち、「参考:封鎖人口を仮定した男女・年齢(5歳)階級別の推計結果・市町村編」
 ・新潟市の保健と福祉(平成29年度)8-3死亡の場所別に見た死亡数

事業所側のニーズ

⇒臨床経験者を求める傾向にあり、経営面(訪問件数による売り上げへの跳ね返り、人材育成にかかる費用)から、即戦力となる人材を求める傾向にあり、新卒を採用できていない状況。

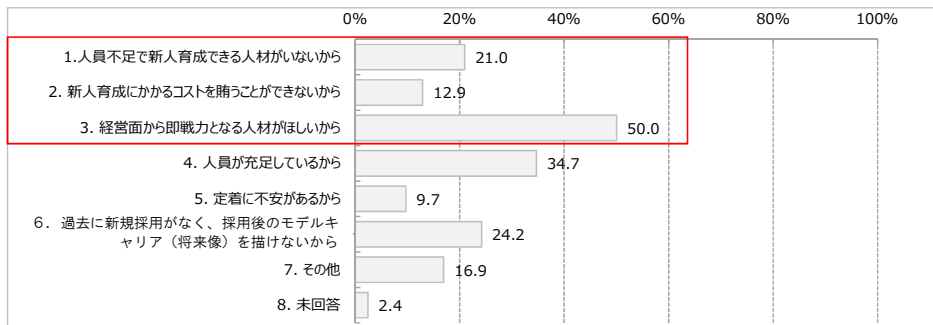
採用しても良いと思う人材の勤務経験

採用希望人材は3年目以上の勤務経験を求める事業所が52%、新卒の採用希望は13%であり、経験者を求める状況にある。

| | 採用しても良いと思う看護師、リハビリ職の勤務経験について (あてはまるものすべて選択) | | | | | | |
|--------------|--|---------|---------------|---------------|-------------|-------|-------|
| | 全体 | 1.経験は不問 | 2.臨床経験が1~3年未満 | 3.臨床経験が3~5年未満 | 4.臨床経験が5年以上 | 5.その他 | 6.未回答 |
| 全体 | 68 | 16 | 19 | 28 | 29 | 3 | 1 |
| | 100.0 | 23.5 | 27.9 | 41.2 | 42.6 | 4.4 | 1.5 |
| 1.訪問看護ステーション | 23 | 3 | 7 | 12 | 12 | 0 | 0 |
| | 100.0 | 13.0 | 30.4 | 52.2 | 52.2 | 0.0 | 0.0 |
| 2.介護老人保健施設 | 19 | 3 | 8 | 9 | 6 | 2 | 0 |
| | 100.0 | 15.8 | 42.1 | 47.4 | 31.6 | 10.5 | 0.0 |
| 3.介護老人福祉施設 | 25 | 9 | 4 | 7 | 11 | 1 | 1 |
| | 100.0 | 36.0 | 16.0 | 28.0 | 44.0 | 4.0 | 4.0 |
| 4.未回答 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

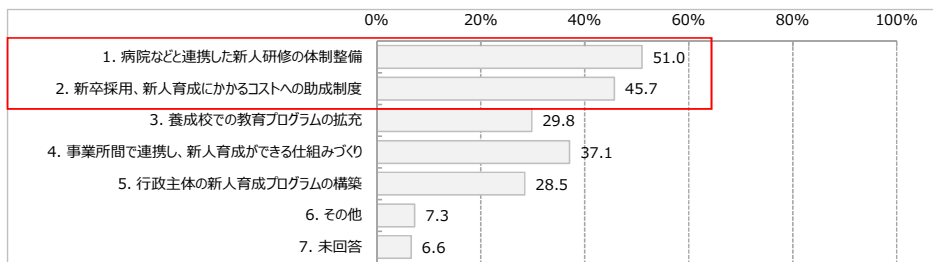
新卒を「採用したいができない」または「採用していない」理由

「経営面から即戦力となる人材がほしいから」が50%。



新卒採用がしやすくなるために必要なこと

病院などと連携した新人研修への体制整備のほか、新卒採用や新人育成にかかるコストへの助成制度が続く。

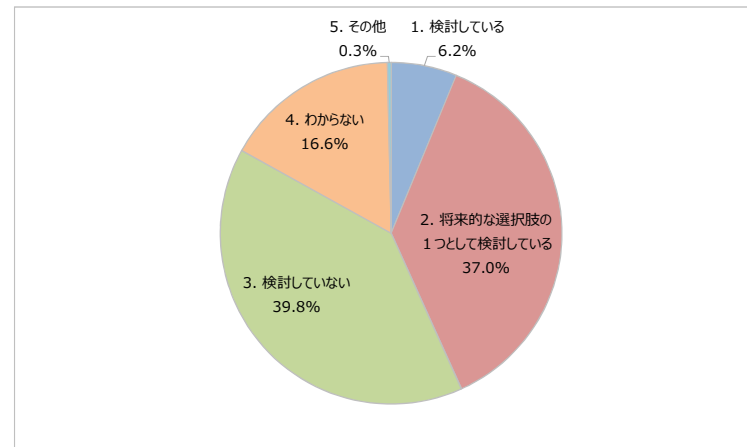


就職者側のニーズ

⇒就職先として訪問看護を検討している学生は半数近くにのぼり、訪問看護への周知や理解が進めば、今後ニーズが増える見込みであるが、訪問看護に関する専門知識や技術の習得や就職後の研修制度やフォローアップの充実など、人材を育てていく環境であることが求められている状況。

就職先として訪問看護ステーションを検討している学生

将来的な選択肢を含め検討している学生は43.6%で、「わからない」を含めると59.8%になる。



就職先として訪問看護ステーションを選ぶために必要なこと

訪問看護、訪問リハビリに必要な専門知識や技術の習得が8割近くに上った。

